

# 企業研究:ドワンゴ

投資研究会 TAMAGO 鳥居 昭秀

## 1. はじめに

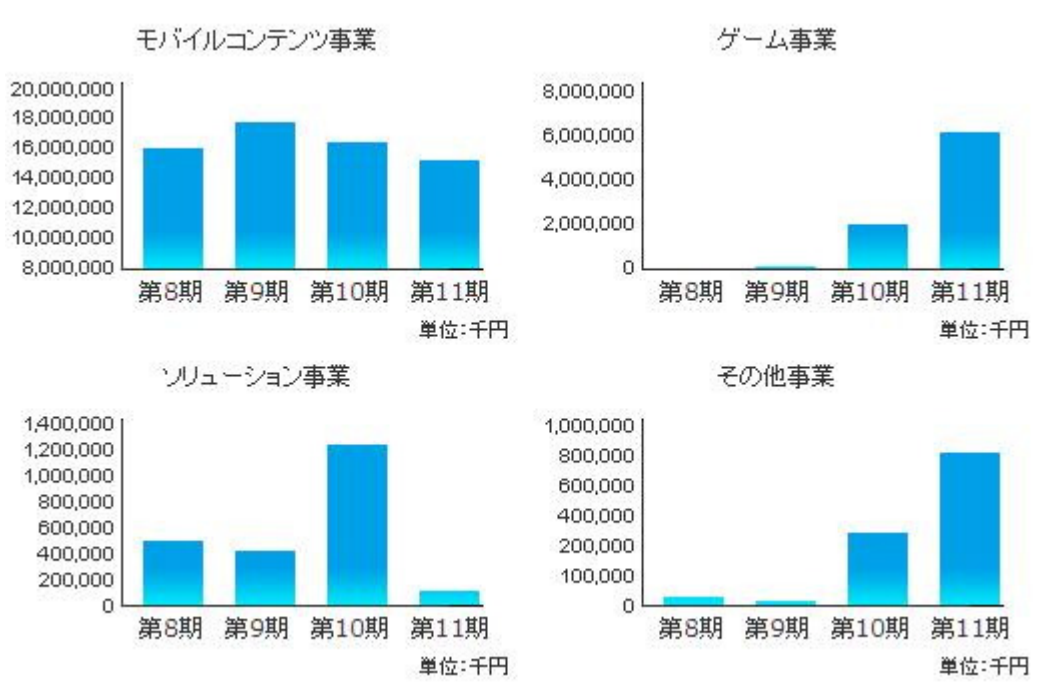
今回企業研究をするにあたって、コンテンツサービス業で私たちの生活の身近にあるドワンゴの研究を行いその投資判断をしたいと思う。

また今回の研究を行う際8月22日(金)に東京都中央区日本橋浜町にあるドワンゴ本社において取材をさせて頂くことができた。

## 2.ドワンゴについて

### -基本情報

ドワンゴは1997年設立の企業でネットワークゲームから始め、その後携帯電話が普及しiモードが誕生すると携帯向けゲーム、ドコモの後押しで着メロ事業にも参入。後発ながらもゲーム業でのノウハウやTVCMなどで知名度を高め現在の着うたフルに至るまでコンテンツサービス、システム開発会社として地位を保っている。最近では、「ニコニコ動画」を中心とするポータル事業にも力を入れている。



出所:dwango IR 情報 財務情報

### -ソリューション事業で起業<1997~1999>

ドワンゴは当初、ネット上で知り合った10~20人規模だった。ネットワークゲームの保守・運用業務(ソリューション事業)の仕事をしていたベンチャー企業で、ハンドルネームでお互いを呼び合っていた。

### -携帯の普及ソリューションからモバイルへ<1999~2001>

携帯が普及し、iモード®が誕生するとゲーム開発へと軸を移す、最初は1999年の釣りゲーム。ドコモの後押しで2001年に着信メロディー事業に参入する。45,6番目と後発だがTVCMなどで知名度を高め、成功し主力はモバイル事業に移行していく。

### -労働環境

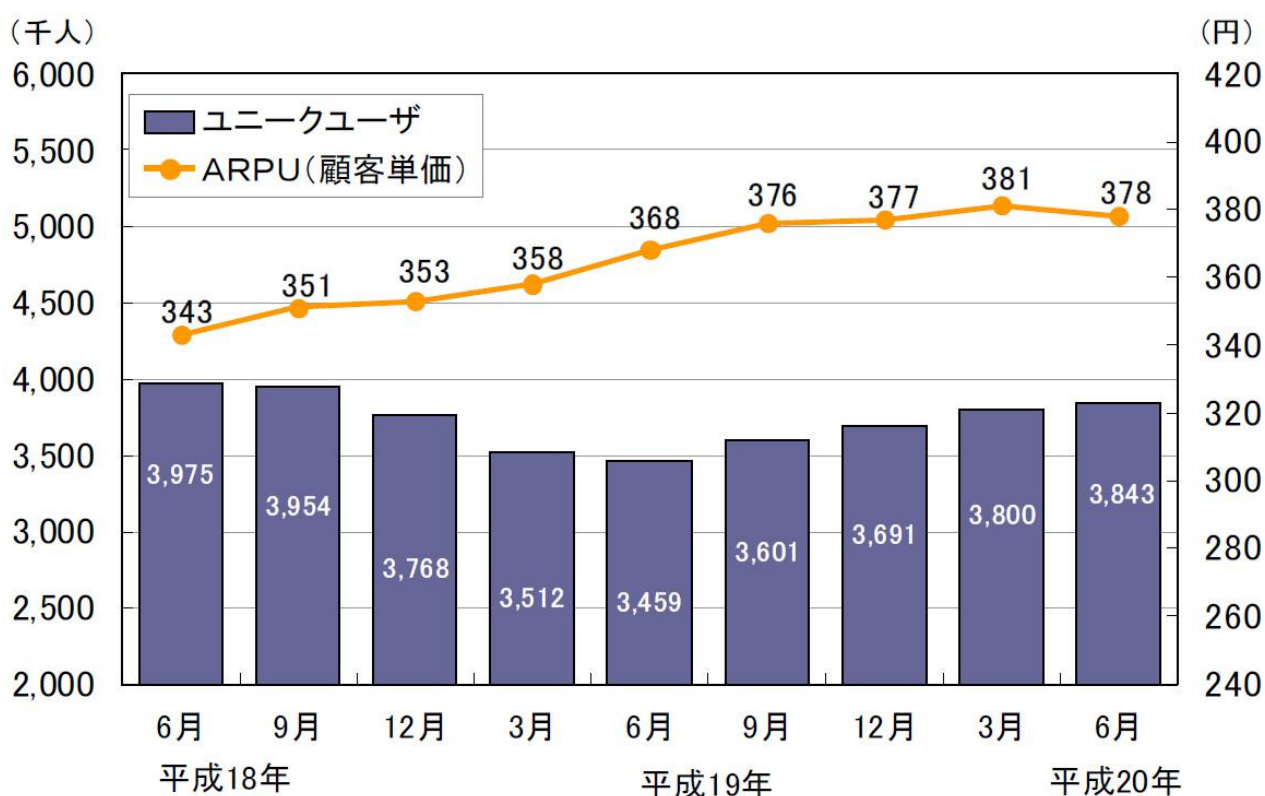
IT 関連は人材が流動的で離職率が高い、これは技術者が組織に帰属しない人が多い傾向にあるためである。そこでドワンゴでは、リフレッシュするスペースを用意し、フレックスタイムの導入、私服での仕事など働きやすい環境を作ることを心がけている。

また流行を追うモバイルコンテンツを扱う企業であることから、多くのチャレンジをするために末端の社員でも意見が通りやすく活躍の場を与えていることや、しっかりとした評価基準で評価し、ボーナスも出すなど労働意欲を高める環境も整っている。

## 3. 現在の状況

### -音楽配信

ドワンゴの主力はやはりモバイル事業における着うた®、着うたフル®など携帯向けの音楽配信業である。音楽配信業務はすでに会員数の大幅な伸びが期待できる状況にはないが、楽曲のラインナップの充実、「ニコニコ動画」内にある「ニコニコ市場」における音楽配信など他のサービスと連動させるなど、新規ユーザー獲得への努力を怠っていない。



出所:dwango IR 情報 平成 20 年度 9 月期 第 3 四半期決算説明書資料

### -ゲーム事業

ゲーム事業はドワンゴの売上の約 20 パーセントを占める事業でスパイク、チュンソフトなど子会社を中心に主にニンテンドーDS®用ゲームソフトなどの開発、受託、販売。その他オンラインゲームの運営などを行っている。

### -ニコニコ動画

ドワンゴが将来の柱と期待するポータル事業で現在中心にあるのが「ニコニコ動画」である。「ニコニコ動画」は動画投稿サイトであり、視聴している動画にリアルタイムでコメントを付けることができるのが特徴。2006 年 12 月の開始から急激に利用者を増やし、すでに ID 登録者数約 800 万

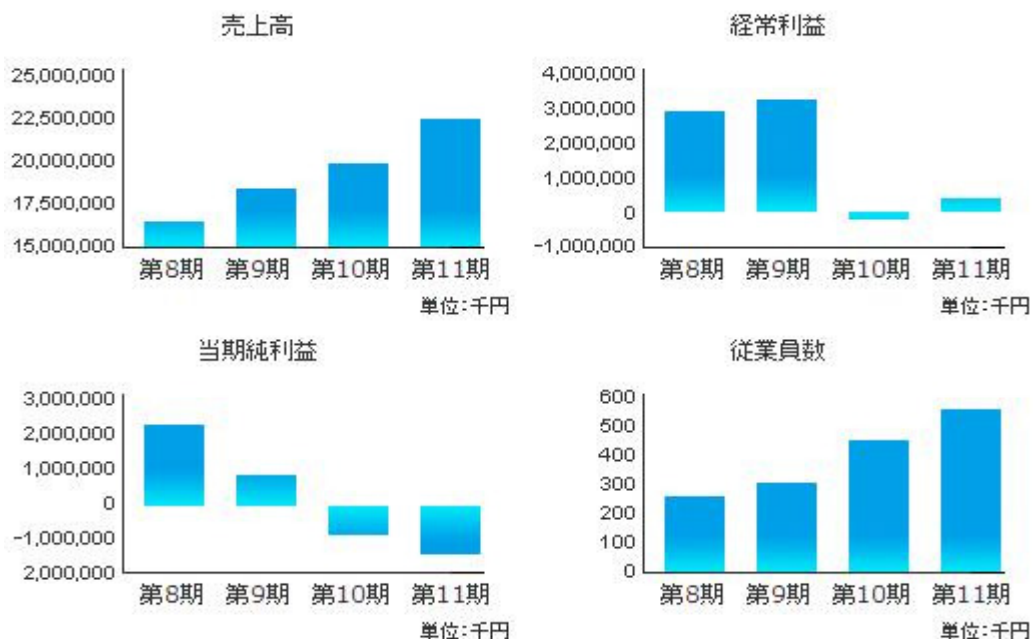
人を誇る日本最大の動画投稿サイトである。

「ニコニコ動画」の主な収入源は有料会員であるが、基本的に無料で視聴できるためにこれまではユーザーからの収益が少なく利益が確保できなかつた。今まではユーザー獲得に力を入れていたとのことで、今後は広告収入等を増やし黒字化していくことが課題である。

また今後は現在のユーザーに多くいるアニメオタクだけでなくあらゆる分野のオタク、ライトユーザーを増やしてゆき、メディア価値を高めていくことも目指していく。

#### -全体の業績

現在ドワンゴは売上こそ伸ばしているものの当期純利益は2期連続で赤字となっている。これは、音楽配信は好調なもの新しい事業である「ニコニコ動画」への投資によって利益が大幅に奪われてしまっているのだと取材の際にも伺うことができた。先ほども述べたが、やはり「ニコニコ動画」の黒字化がドワンゴにとって重要だと考える。



出所:dwango IR 情報 財務情報

#### ・今後について

#### -提携

IT 企業であるドワンゴには常に変化が求められる。そこで 2006 年にはエイベックス、今年にはヤフー協業など積極的に提携等を行ってきた。今後もさまざまなサービスとの提携など積極的に提携を行い、また場合によっては M&A も視野にいれて時代の変化に対応していく見込みである。

#### 4. 投資判断

ドワンゴは収入の軸としてのモバイルコンテンツ事業が好調である。また会員獲得の努力を積極的に行っていることから今後もこの調子は続くと考えられる。また次の軸となるポータル事業は、利益は上げていないが会員数は急増しており、収益を出すポテンシャルを十分に有している。このことから私はドワンゴは投資対象として良い銘柄であると判断する。

□各社の社名、製品名、サービス名は、各社の商標または登録商標です。